



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol. 11
2011.4.1

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

睡眠歯科センターのご案内

睡眠歯科センター

口腔外科教授／センター長 河野 正己



平成12年以来、いびき診療センターとして診療してまいりましたが、新外来への移転に伴い、平成23年4月より睡眠歯科センターと改称いたしました。「睡眠歯科」とはDental Sleep Medicineの和訳で、睡眠医学で歯科に特化した診療や研究を行う分野です。引き続き(社)日本睡眠学会認定医療機関として、いびき症や睡眠時無呼吸症候群はもとより、歯ぎしり症(ブラキシズム)などの睡眠関連運動障害、口腔乾燥症などの歯科疾患に起因した睡眠障害、さらに誤嚥性肺炎につながる睡眠中

の誤吸引(aspiration)の予防を目的とした口腔気道ケアについても診療します。

終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)につきましては、2009年より米国睡眠学会(AASM)の提唱する新しい診断基準を導入しております。この診断基準は北米など睡眠医学の先進国ではすでに義務付けられており、国際的な研究会や雑誌に論文を発表するには必須となっております。これにより

患者の病態を過大に評価することがなくなり、口腔咽頭手術や口腔装置などの治療効果が正當に評価されるようになりました。当センターに終夜睡眠ポリグラフ検査をご依頼いただく際には、診断目的に応じて、新しい診断基準がいか古い診断基準(1999年の診断基準)がいか、ご希望を添えてお申込みいただけますようお願い申し上げます。

また治療につきましては、nCPAPと口腔装置(マウスピース)との併用療法(THE LUNG perspective vol.18 No.3 2010)を医科病院の協力のもとで行っており、治療継続率など国内でトップの成果をあげております。もちろん他院で管理されているnCPAPも、管理医と協力して口腔装置併用療法を行いますので、nCPAP治療の継続に難渋している症例などは早めに介入させていただけると幸いに存じます。



東日本大震災における 歯科保健医療支援活動について

●日本歯科大学新潟病院口腔外科
地域歯科医療支援室

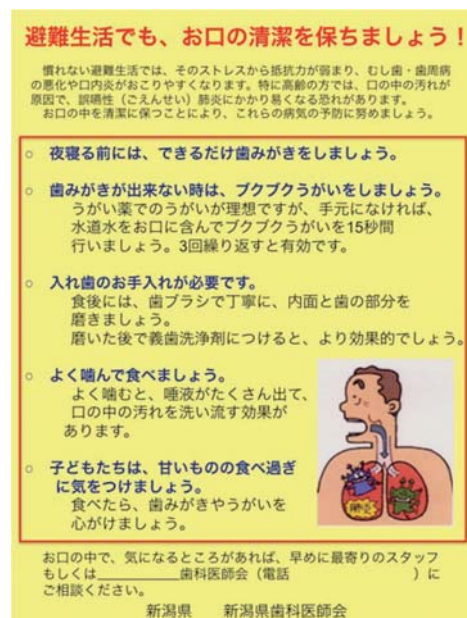
田中 彰

東日本大震災に被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。そして、犠牲になられた方々に深い哀悼の意を表します。

東日本大震災は、未曾有の津波被害により避難生活が長期化することが予想されている。大規模災害時の医療支援は、災害派遣医療チームDMAT(disaster medical assistance team)をはじめとする緊急救出医療が重視されるが、長期化する避難生活がもたらす様々なストレスや環境因子から引き起こされる災害関連疾病の予防は、極めて重要となる。特に被災高齢者における誤嚥性肺炎のリスクは、避難生活の時間的経過とともに増大すると言われており、この予防には、歯科保健医療が大きな役割を担うことになる。

新潟県中越地震、中越沖地震では、震災関連疾病、誤嚥性肺炎予防のために、中長期的な健康対策、保健医療が重視され、新潟県歯科医師会を主体とした歯科保健医療支援活動もその一環としての役割を担った。新潟モデルとされる局地型大災害の歯科保健医療支援活動は、応急歯科診療のほか、中長期的に健康サポート事業等を通じて避難所や仮設住宅におけ

る巡回口腔ケアを継続的に行うものである。今回の震災では、集団移転や広域避難といった新たな避難体制がとられ、被災地周囲地域においても対応が求められる事態が生じた。新潟県内には、最大で9,000人を越える被災者が避難し、県内各所に避難所が設置された。そこで新潟病院は、早くから新潟県歯科医師会災害対策本部に参画し、共同で対応にあたった。歯科医師会は、いち早く各避難所に歯科医療相談窓口を設置し、歯科医療需要を分析し、必要に応じて巡回口腔ケアを開始した。また、避難生活における口腔ケア啓発ポスター(図1)を新潟病院と共同で作製、配布し、被災地の歯科医師会にも提供する体制を構築した。一方で、新潟病院は3月18日より被災地気仙沼、南三陸町に医員を派遣し、避難所、介護保険施設における巡回口腔ケア支援活動を行うとともに(写真1~3)、3月15日には政府機関ならびに日本歯科医師会からの要請により、多数の行方不明や亡くなられた方の身元確



●図1 県内避難所に配布された口腔ケア啓発ポスター



●写真1 気仙沼市内避難所における被災者への口腔ケア



●写真2 気仙沼市内避難所における被災者への口腔ケア

のダメージも大きいため、被災された歯科医師の復興を外部支援としてサポートすることも重要と考える。そして、今後支援活動に対する十分な検証活動が行われ、新たな広域型大災害における歯科支援体制の確立が必要であろう。

最後に、1日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

認作業のために、全国に先駆けて医員2名を被災地に派遣した。

今後、被災地では避難生活が長期化することが予想されており、中長期的な誤嚥性肺炎対策としての口腔ケアや、生活不活発病予防のための口腔機能維持向上訓練の啓発活動が重要と考える。これらの活動は、被災者の健康維持だけでなく、被災住民への歯科受診行動を啓発することになり、地域歯科医療の復興への貢献も期待できる事業である。新潟病院では新潟県歯科医師会と口腔ケア啓発用イラスト（紙芝居）を共同制作し、新潟県内の避難者はもとより被災地への提供も検討している（図2）。

東日本大震災は、我が国がかつて経験したことのない広域大災害で、津波・原発被害により、外部支援が困難な状況であった。そして被災地域歯科医療



●写真3 南三陸町内避難所における義歯洗浄



●図2 被災高齢者対象の口腔機能維持向上啓発指導用紙芝居（一部）



【地域歯科医療支援室から】

■ 名称変更のお知らせ

日頃から当院の地域歯科医療連携につきましてご協力を賜り、誠にありがとうございます。

4月から「いびき診療センター」の名称を「睡眠歯科センター」に変更いたしました。

従来どおりFAXによる事前予約をご利用いただけます。紹介患者事前申込書(FAX用)も「いびき診療センター」から「睡眠歯科センター」に変更いたしました。新しい紹介患者事前申込書を同封いたしましたので、ぜひご利用ください。なお、既存の紹介患者事前申込書のご利用も可能です。

お手数をおかけしますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

新潟病院 主な診療スタッフ

＜病院長＞ 関本 恒夫 ＜副院長＞ 宇野 清博、山口 晃

●診療科	●科 長	●医 長	●特殊外来	●特殊外来医長
総 合 診 療 科	宇野 清博	佐藤 友則 菅原 佳広 阿部 祐三 横須賀孝史 海老原 隆 二宮 一智	白 い 歯 外 来 ス ポ ー ツ 歯 科 外 来 いき息さわやか外来 あごの関節外来 口のかわき治療外来 歯科アレルギー治療外来 歯科鎮静リラックス外来 顎のかたち・咬み合わせ外来 特殊歯周病治療外来	海老原 隆 渥美陽二郎 大森みさき 永田 和裕 戸谷 収二 二宮 一智 大橋 誠 水谷 太尊 阿部 祐三
口 腔 外 科	山口 晃	田中 彰		
歯科麻酔・全身管理科	大橋 誠	—		
小 児 歯 科	島田 路征	三瓶 素子		
矯 正 歯 科	遠藤 敏哉	黒木 大雄		
放 射 線 科	外山三智男	佐々木善彦		
●センター	●センター長	●チーム	●チーム長	
障害児・者歯科センター	島田 路征	在宅歯科往診ケアチーム	黒川 裕臣	
口腔インプラントセンター	廣安 一彦			
睡 眠 歯 科 セ ン ター	河野 正己			
口 腔 ケ ア セ ン ター	江面 晃			

★ ★ 9号より紙面の文字が大きくなりました。 ★ ★

編集
後記

■3月11日の東日本大震災により本当に多くの人々が被災されました。震災に逢われた方々には謹んでお見舞い申し上げます。震災のつめ痕の大きさに心が痛む反面、義援金や震災ボランティアなど支えあおうとする想いの強さに胸を打たれることもしばしばです。私にできることは募金と節電くらいですが、被災地の支援と復興が進み、「避難所」がなくなるその日まで、続けていこうと思っています。(中)

〈お詫び〉 東日本大震災により、本号にて掲載が予定されておりました内容の一部に差し替えが生じ、発行が大幅に遅れる事態となりました。謹んでお詫び申し上げます。



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER



発行日／平成23年4月1日 発行人／関本恒夫
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)